

▽ 商社からの転身で

「商社では40年以上、化学品ビジネスに携わってきたが、製造まで踏み込んだ仕事をしたいというも考えていた。国内製造業の実力を高く評価していたからだ。前職でも積極的に生産現場をみてきたが、実際に当社の各工場を歩くなかで、外部からは当然にみえる生産改善や合理化技術が先人達の成果を積み重ねてきた結果だと気づき、ものづくりの奥深さを実感している」

▽ 御社の強みは。

「企業理念を経営の中心に据えるビジョナリー経営を実践していることだ。企業理念の『TRUE VALQUA WAY (バルカー・ウェイ)』は全社に浸透し、品質や生産工程だけでなく、経営や営業、接客部門、そし

てCSRと企業活動全体の指針として確立している。これは一朝一夕でできることではなく、瀧澤利一会長をはじめ全社員の努力によるものと尊敬

新社長登場

▽ どのような経営を

行っていくますか。「企業理念を継承し、自身の経験がどのように貢献できるかを考え、中長期的にデザインしてい

バルカー

顔 横

同社初となる外部からのトップ就任は、ソリューション型企業への進化にむけた陣頭指揮が期待される。5万人以上の人名刺交換をしてきた」と、人との関わりを大切にしている。これまでの出合いを糧に、事業に新風を吹き込む。座右の銘は「二期一会」。



本坊 吉博 氏

きたい。化学品ビジネスを通じて幅広い産業と接点を持つことができた。その経験を生かして、成長分野での顧客開拓など

「年初予測でも今年の半導体市場は需給調整期間とみていたが、外部要因も加わりさらに厳しい状況になっている。しか

には積極的に関わりた

人とつながるモノ作り

〔ほんぼう・よしひろ〕1979年(昭和54年)東京大学経済学部卒、同年三井物産入社。10年執行役員基礎化学品本部長、12年常務執行役員事業管理部長、14年代表取締役専務執行役員、17年代表取締役社長執行役員。19年バルカー入社、副社長執行役員。鹿児島県出身、62歳。

略歴

し、顧客からは将来の需要に備え新製品開発の要求が多く、期待できる開発案件を多数抱えている。また、当社の主力であるシール事業は、半導体製造装置や石化プラントだけでなく、あらゆる産業に必要な技術、製品だ。既存分野での付加価値

向上とともに、新エネルギーや医療、食料品など、これまで手薄だった市場にも意欲的に取り組みたい」

▽ ソリューション型企業を目指している

「健全で持続的な成長を実現するため、ハードとシールエンジニアリング・サービスを融合した『H&S企業』へ進化させる。顧客と課題を共有し、それを解決する製品や技術を創出することで存在価値を高めた」

▽ 現在の組織、生産体制についてはどの

ような考えですか。「生産現場研究開発、営業が三位一体となり成長分野に注力しないと継続的な成長は望めない。そのための事業ポートフォリオや生産体制の最適化は継続的に取り組む。グローバル拠点には、事

業の独自性や経営判断のスピード化を目的に本社からの権限委譲を進めた

▽ 他社や異分野との連携については。

「産業技術総合研究所との連携ラホをはじめ、大学などとの協働で先端技術開発に取り組む。また、取引のある企業とは共通テーマについて議論を始めている。財務状況も良好なのでM&A(合併・買収)も積極的に考えた」

▽ あらためて抱負を。

「顧客から当社製品への感謝を聞くことが多く、シールおよび機能樹脂製品を通じて地道に培った信用によるものと感じている。このブランド力をさらに高めるチャンスを的確に捉え、収益拡大に貢献したい」

(聞き手)阿桑健太郎